

聴く

新潟いのちの電話だより

2017.9

No.134



相談電話

(025) 288-4343

上越(025) 522-4343

長岡(0258) 39-4343

新発田(0254) 20-4343

村上(0254) 53-4343

インターネット相談

<https://www.inochinodenwa-net.jp>

息子のいのちを救ってくれた三味線

高橋竹育

1999年12月、息子 史佳は、うつ病をきっかけに会社を退職し、新潟に戻ってきました。

ある日「そうだ、息子は小さいとき三味線が上手だった」との思いが、ふいに頭をよぎりました。サラリーマンは合わないけれど、三味線ならやれるのではないかと、私は真剣に考えるようになりました。

早速「暇なんだから、三味線でも触ってみたら」と声をかけましたが、嫌そうな顔で「長いことやってないから無理だ」と言いました。「大丈夫、できるから。やってみなさい」と何度か言ううちに、少し気持ちが動いたようでした。そして手に取った瞬間、不思議なことに指が自然に動いて弾けたのです。

この日から少しずつ、息子に変化が起きてきました。「空き時間に少しでも教えてほしい」と言ってきたのです。そして、十年も三味線から離れていたのに、一曲を一日で覚えてしまうのです。三か月で、通常二十年かかってやる曲を全部覚えてしまったのには、驚いてしまいました。

それから半年後に控えていた、新潟高橋竹山会の演奏会に独奏させることに決めました。なんとか自信を取り戻してほしいと、周囲の反対を押し切って、一か八かの勝負に出たのです。無心に演奏する息子をじっと見守ってくれた会の皆さん、ほんとうにお世話になりました。

そして息子は、みるみる自信を取り戻していくのですが、まだ三味線の道に進む決心はつかないようでした。ある晩息子は、初代高橋竹山先生の「最後の舞台」のビデオをみました。先生はご病気で、三味線を持つ力もなく、人に支えてもらい、演奏にもなっていないのですが、その場面をみて、息子は一晩中号泣したそうです。これからの人生、もう一度やり直したいと、新しい希望を見つけたようでした。

それからというもの、小さなライブをさせていただいたり、アトラクションに出させてもらったり、毎日三味線のことだけ考え、本番の経験を積んでいきました。そして一年後、CDをリリースするのです。タイトルは「新風」。凄い！の一言でした。

(三味線演奏家・新潟高橋竹山会会主)

ある日の相談室より

「誰も友だちがいなくて…。ひとりぼっちです」20代なかばと思われる、若い女性からの電話でした。

週に何回か作業所に通っている、お母さんは入院中、兄弟は県外に在住し、お父さんと二人暮らしをしていることなど、ポツリポツリと話されました。「母は私が13歳のときに倒れ、身体が不自由になり、今は病院で寝たきりの状態です。会話もできなくなり、私が見舞いに行っても何もわからなく…」十数年もの長い間、入院されているといいます。

「お母さんがそんな状態になったから、私は『うつ』になったんだと思う。お母さんはとっても繊細な人で、私もお母さんに似ているところ、あると思っているから…」涙声が混じります。多感な少女時代から母親の入院で、どんなに淋しい思いをしてこられただろうと胸が痛みます。

「十数年もの間、よく頑張ってくれましたね」とねぎらうと、「ありがとうございます」と、少しだけ、元気を取り戻されたようでした。

「病院へお見舞いに行かれたときは、どんなふうにお母さんに接しておられるのですか？」

「うーん、耳もとで『お母さ〜ん、お母さ〜ん』と呼びかけたり、むくんでいる足をさすってあげたり、手をなでてあげたり…」

「それから、オルゴールをきかせてあげたりもします」

「まあ、オルゴール」

「いつもそうしています。でも、何も言ってくれない。元通りのお母さんになってほしい…」

「そうですね…。あなたの想いが、お母さんに伝わるといいですね」

淋しくなったらまた電話しますと、その電話は終わりました。どうか彼女の想いがお母さんに届きますようにと、祈りながら受話器を置きました。

(内容は、電話を基に構成し直したものです)

体験してわかること

布施直美

自分の働き始めを思い出すと、懐かしいような、恥ずかしくて穴に入って隠れてしまいたいような…様々な想いが出てきます。

臨床心理ではスーパーバイザーを探すことが大変で苦勞すると言われますが、私の近くにはすばらしい先生方が常におられ、いかに自分が幸運かと感謝しています。若い頃は勉強会での先生方のやりとりが全くわからず、まるで外国語のように聞こえました。それが何十年とその場にいると、なんとなくわかってくるから不思議です。皆さんも日ごろのお仕事や研修などで、同じようなことはないでしょうか。

働き始めの頃、スーパーバイザーから「あなた自身が聴くことの効果を信じていないのではないかしら」と言われたことがありました。その時は凶星を指されたようでドキッとしましたが、今一つ言われたことが当時は理解できていなかったように思います。時が経つなかで自分が実際に聴いてもらった体験、反対に聴いてもらえなかった体験…様々な体験を重ね、時々、スーパーバイザーから言われた、あの時の言葉を繰り返し思い出します。

我々の領域は頭で理解するだけでなく、体験として実感し理解することも大切です。皆さんも、日々の生活での体験を味わい大事にしてみてください。

(臨床心理士)



毎月10日(午前8時より翌日午前8時まで)は
フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」が実施されています。
電話番号 0120-783-556

お知らせ

会費納入ありがとうございました

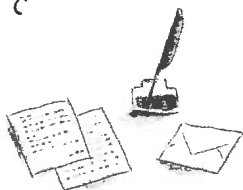
たくさんの会員、企業、団体の皆さまの温かいお気持ちに支えられ、電話相談を続けることができます。会費は大切にに使わせていただきます。

相談員養成講座開講

2017年度の養成講座は4月に開講し、順調に進んでいます。秋には一泊研修で、学びを深めます。2018年度の募集は12月からとなります。一緒に活動する仲間がさらに増えることを願っています。

自殺予防週間

9月10日の世界自殺予防デーにちなみ、毎年、9月10日からの一週間は自殺予防週間となっています。新潟いのちの電話でも、テレビ、ラジオで広報活動を行ったほか、9月4日(月)JR新津駅構内でキャンペーンを実施しました。



チャリティーバザー

(新潟いのちの電話後援会主催)

日時 9月24日(日) 11時～14時

会場 新潟市総合福祉会館
2階 多目的ホール

後援会の方々が中心になり、準備を進めてくださっています。善意の寄贈品の販売、切り花や新米、とれたての野菜の販売、喫茶コーナーもごぞいます。

ご来場をお待ちしております。



新潟いのちの電話 心の健康セミナー

今年度も開催いたします。

ぜひ、参加して下さい。

- 10月21日(土) 14時～16時

新潟市 だいしホール

「天上の音楽」コンサートとミニ講演

- 11月26日(日) 14時～16時

阿賀町公民館

「津軽三味線演奏とトーク」

(講師) 史佳 Fumiyoshi・高橋竹育
及 川紀久雄

2017年9月20日発行

社会福祉法人 新潟いのちの電話

〒950-0994 新潟市中央区上所2-2-3 新潟ユニゾンプラザ ハート館
事務局 TEL (025) 280-5677 FAX (025) 280-5677
ホームページアドレス <http://www.ni-denwa.jp>

9月の絵手紙



Sakurai Kouji